

衆議院議員 玉城デニー FAXニュース (12/27号)



◆ 「絆～きずな」2011年を振り返って (玉城デニー談)

千年に一度ともいわれる未曾有の地震と津波による大災害で東北・東日本地方は言葉にならない甚大な害を被りました。また同時に起こった福島原発事故は未だに完全収束に至らず、自然の脅威とともにエネルギー問題の深刻さをも国民皆さんが改めて考えた出来事だったと思います。一方では、災害支援に対して世界各国から寄せられる温かい多くの協力、現地ボランティアへ希望参加する多くの人々、スポーツでは「なでしこ女子サッカーチーム」の活躍で日本中が歓喜に包まれたシーンなど、「人の持つ力と素晴らしさ」に、たくさんの方があつい感動を覚えられたことでしょう。自然への畏敬、社会を形成する人間関係、そして、ともに生存する共生の理念など、地域の生活の中で失われることのない営みの意味することを改めて振り返って見た一年でした。さて、来年は私たちの沖縄県が新たな計画で「自立への道」を歩みだす政策的に重要なスタートの年になります。国内経済の長引く不況から脱するための成長計画として「絆」を礎にした人的・社会的基盤の構築を図り、付加価値の高い沖縄ならではの地域振興と幅広い展開を目指していきましょう。



<浦添市 FM2.1 コミュニティー局生出演 (12/10) 進行役の高山朝光さんと今年一年の政治を語る>

◆ 「拙速な消費増税には反対！」



<税と社会保障一体改革調査会にて>

「税と社会保障の一体改革」素案年内取りまとめが、大詰めを迎えている。党内には消費増税に対する慎重派が多く、増税時期や上げ幅がどこまで素案に書き込めるか増税推進派とのギリギリの攻防が続いている状況です。社会保障費の伸びを抑制することは難しく、現在国が負担している費用（国庫）は財政的にもはや限界を超えており、世界に誇れる「国民皆保険制度」を維持するために将来的には消費増税に踏み切れなければならない。そうでない限り、基本的には「健康保険料を増やす」か「窓口負担を上げる」ということでしか社会保障費の伸びを賄うことはできないからだ。東日本大震災、円高、デフレなどの影響で景気が冷え込

んでいる今の状況で、なぜ国民経済をさらに冷え込ませるような拙速な判断をしようとするのか、甚だ疑問に思う。日本経済を支える中小企業の消費税滞納額は、年間3千億円を超えている。経済活動が停滞している中でいま消費増税をしたらどうなるか。やるべきことは早急かつ有効な円高対策であり、復興を足がかりとした大胆な経済対策ではないだろうか。

『2012年玉城デニー事務所・新春初起しのご案内』

辰年の飛躍を皆さまとスタートさせていただきたく、『玉城デニー事務所・新春初起し』を開催いたします！是非お気軽にご参加下さい。

日時:2012年1月5日(木) AM11時～13時 会費:500円

場所:玉城デニー事務所前(美里公園近く) 連絡先:玉城デニー事務所 担当:玉城(奈々)・辺土名



配信停止やご意見などございましたら、ご連絡をお願いいたします。

平成 23 年 12 月 27 日発行：民主党沖縄県第 3 区総支部（玉城デニー事務所）

TEL.098-929-2416 FAX.098-929-2005